

2017 年度 第 30 回 日本人間関係学会「関東地区会」研修会報告

本年度テーマ：「支援者としての困難と克服」

ー自分自身が挫けないための方法を見出すー

「ヒューマンリレーション・スキルトレーニング(Human Relation Skills Training)=HRST」

第 30 回研修会テーマ 「先人の事例に学ぶ支援の在り方」

資格研修講座(選択講座 B-2)・更新講習講座

- I 開催日時 : 2017 年 5 月 27 日(土) 14 時～17 時
- II 開催場所 : 越谷市サンシティホール小会議室
- III 課題提供 : 佐藤啓子
- IV 司 会 : 岡田昌子
- V 記 録 : 杉本龍子
- VI 参加者 : 7 名

<趣旨>

そもそも、支援とは何か。通常、支援する人は、対象としての人を一方的に支援しているととらえられやすいが、実は、支援している側も同時に支援されている。また、自己が自己を支援することもあり得る。ここでは、過去において支援に生きた先人たちのエピソードに学びながら、改めて、今・ここからできる支援のありかたについて学びあう。

<展開>

I 部 (14:00～15:00)

1. 先人たちの支援事例について概観する。
 - (1) 自らの命と引き換えに囚人を支え、救った事例
 - ① マキシミアノ・コルベ
 - (2) 人類愛に根差して不特定多数の人々を支援した事例
 - ② アルベルト・シュヴァイツァー
 - (3) 恵まれない人々と共に暮らして支援しつつ、喜びを与えた事例
 - ③ 賀川豊彦
 - ④ 北原怜子
 - (4) 自己が自己を支援した事例
 - ⑤ 亀高素吉

2. 参加者から、聞いているの感想を述べる。

・5名の共通性は恵まれた家庭に生まれ自己のアイデンティティのために周囲の貧しい人への支援を行った。

・シュバイツァー博士については学校時代に学んだ。賀川豊彦を崇拜した内村鑑三氏の娘たまきさんの教会へ通っていた。私自身はYWCAで結婚式をあげた。また北原玲子さんの活動を知りありの街へ足を運び、大阪尼崎へもありの街を浮かべながら度々行った。

・犠牲愛を感じたが自身の生き方として行っている。マザーテレサを浮かべながらそれぞれの“先人とともに”支援の在り方を考えた。

・ありの街は映画を見た。キリスト教は世界各地を周って布教を行っている。妹がクリスチャンで神父さんのお世話を行っている。

・5人の方のそれぞれとの自分との関係を思い浮かべながらきいた。コルベ神父は遠藤周作氏の「沈黙」、シュバイツァー博士は学校で、今回調べてアフリカ人からは人種差別をしていたことからあまり敬愛されていなかったことを知った。これはアフリカ在住だったためかと思った。賀川豊彦氏はこれだけの活動をしているが優生学に目覚めハンセン病患者の撲滅を考えたのは残念。北原玲子氏が活動したありの街付近ではキリスト教関係の病院が運営に行き詰まりなくなった。亀高素吉氏は神戸製鋼の社長としてラグビー部を育てた。阪神淡路大震災の年に神戸製鋼ラグビー部は日本一になった。この試合を観戦していた。

杉本会長 今年度の課題として“支援者が挫けないための方法を見出す”とし、支援者として自分が挫けないでやり続けるエネルギーはどこからくるものか、今回の事例から考えた。自分が挫けないためには「3つの力」があると考えられる。①信念(信仰 価値)の力 ②関係的な力(共に活動をする人が居る、など) ③探究する力 である。信念の力はなによりも大きいがこの主にありすぎると偏った対象者理解に繋がることもある。関係的な力は対象者と共に在ることで、同じ人としての視点に立つことができる。探究する力は支援者自身の動機付けや支援のエネルギーを維持する力になる。今回の先人達からは、人としても人生を豊かに生きるためのヒントや、根本的な支援を考えることができ、今年度のテーマの最初の研修として意義深いものであった。

II部 (15:10~16:30)

1. 話題提供に基づく心理劇的場面の構成 (監督:佐藤啓子)

(1)第1セッション:「憩いの家」に集ったそれぞれのメンバーたちが、今自分が最も支援を受たいことをそれぞれに述べる。

- ・夜、2時間おきトイレに起きる、・家の中の片付けが困難
- ・自分の体を思うように動かない、血圧が下がらない
- ・長いこと人のお世話をしてきたが、本当に相手の気持ちを考えてはいなかったのでは、、、
- ・その他

(2) 第2セッション:参加者それぞれが特色ある支援サービスセンターを開き、その宣伝をする。

- ・持ち寄り昼食会開設サービス
- ・片付け支援サービス
- ・24時間お助けセンター
- ・憂さ晴らしセンター
- ・おしゃべりサロン
- ・支援者同志の語らいセンター、等

(3) 第3セッション:「憩いの家」に集ったそれぞれのメンバーが、自分自身に必要な支援を求めて交流する。

- ・使わなくなった茶碗の中から好きなものを選んで、思いっきり投げ捨てる、他

2. 感想・質問・意見

- ・いい人もいる。悪い人もいる、やっぱりみな人間だ。
- ・ずっと支援する側にいると大変!
- ・傾聴する。笑いがいい。
- ・最近身近に支援したが、うさばらしが重要。支援は一步誤ると支配になる。自分のできること、出来ないことを考えたい。
- ・支援していた立場から受ける側になって、できないことははっきり言ってほしいと思った。

Ⅲ部 (16:30～16:50) シェアリング・まとめ

佐藤講師 私自身は、先人たちの実践や、本日の参加者からのご意見から、

支援する人もされる人も、①人間としての原点に立つことが重要。人は全てが善であったり悪であったりするのではない。その人の成し遂げたことを後世の人々から見れば、批判的な面も見える時があるが、私たちはそれを見極めつつも、その人の在り方の中で、何が参考になるか、活かすうるか、を拡大視して、自らの実践に繋げていく姿勢が大切ではないであろうか。②また、支援する側は、時に辛くなったり悲しくなったりすることもあるが、少しでも楽しいことを見つけて楽しめること、③こだわりから切り変える力を養成していくかどが、支援の根本姿勢として望まれることを学んだ。

また、本日のセッションのような支援センターが、世の中にたくさんできるとよい、と思った。

<次回 定例研修会のご案内>

開 催 日 : 平成 29 年 7 月 29 日 (土) 14 時から

開 催 場 所 : 越谷市サンシティホール小会議室